

週刊センターニュース

No.125



第125号(2006年9月11日) 毎週月曜日発行
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL: http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm

○●○ 共同学習会のご案内 ○●○

日時: 9月14日(木) 16:30~18:00

場所: 角間キャンパス総合教育棟北棟D10教室

(通常の共同学習会とは場所が異なりますので、ご注意ください。)

テーマ: タブレット PC および電子黒板体験

発表者: 堀井 祐介 (大学教育開発・支援センター)

趣旨: タブレット PC や電子黒板を実際に体験していただき、より効果的な活用方法について考えてみたい。

○●○ 日本リメディアル教育学会参加報告 ○●○

9月1日(土)、2日(日)の二日間、JR 京都駅前のキャンパスプラザ京都で開催された日本リメディアル教育学会第2回全国大会に参加した。リメディアル教育、初年次教育、入学前教育などについて2つの特別講演、2つのシンポジウム、39件の発表と非常に盛りだくさんな内容であった。プログラムの詳細は <http://www.remedial.jp/18-conference.html> を参考にさせていただき、今回はそれらの中から、特に入学前教育を扱ったものについて2つの事例を紹介させていただく。

1. 京都工芸繊維大学の例

京都工芸繊維大学(以下、工繊大)では2002年度よりダビンチ入試と名づけたAO入試を実施しており、社会人を含めたダビンチ入試合格者向けに入学前指導を実施している。その目的は、「①入学までの学習意欲の継続・向上を図る。②入学後意欲的に学習に取り組むことができるように学習指導、動機付け、激励などを行う。③高校との連携を図り、高校の進路指導を側面支援するとともにAO入試のアピールを行う。」というものであった。特に③については、3月末まで多様な入試に対応しなければならない多忙な高校教諭としては「12月中に進学先が確定した生徒の指導は、入学予定の大学で面倒見てくれると助かる」というのが本音とのことであった。入学前教育(工繊大では「入学前学習」と呼んでいる)の形態としては、当初は国語、数学、英語で実施していたが2005年度から物理を追加し、現在は4科目となっている。各科目ごとに30ページ程度のテキストを作成(一部、市販のものを利用)、配布し、12月下旬から3月末までの約3ヶ月間に3回の郵送による添削指導と1回の学習相談会を行っている。入学前学習への参加は任意であるが、例年ほぼ90%前後が参加している。添削指導は元高校教諭が担当し、提出率はほぼ80%とのことであった。参加しないまたは提出しない生徒は「遊んでいる」か「わかっているからいい」の2つに分かれるとのことであった。この入学前学習は、参加者からの評判も良く、学内的にも重要であると認識されているとのことであった。工繊大では入試形態(前期、後期、AO)による、入学後の成績差はないとのことであった。

2. 近畿大学の例

7学部のAO、推薦入試合格決定者（1322名）向けに12月中旬から3月末までe-Learningにより実施。実施科目は6科目（英語、数学、化学、物理、生物、日本語）。これらの中から学部により必修科目、選択科目を設定。e-Learningによる実施のため、高校や保護者へのPC環境提供依頼を行っている。添削、自動配信メールは業者が担当、激励メールの送信は学科教員（教務担当）が行う。決め細やかなケアが有効であり、かなり高いアクセス率であった。実施のきっかけは、いわゆる「ゆとり教育」による学力低下への懸念（物理、数学の学習が不十分、レポートが満足にかけない）であった。

これらの発表と関連し、入学前教育についてのシンポジウムも開催され、全体討論では、「入学後に大学が求める「高校終了時までには習得すべきもの」とは、各大学が大学教育の目標は何なのかをはっきりさせないと決められないものである。」「AOや推薦入試で入学する学生には不得意な分野があることもあるので、それらを克服させるという視点が重要」、通学または合宿による入学前教育を実施した大学からは「それらに参加した学生は友人関係が出来ており、入学後リーダー的になっている。」といった声が聞かれた。最後に、金沢大学からもIT教育推進プログラムの活動を中心として4件の発表が行われたことも付け加えさせていただく。（文責：教育支援システム部門 堀井祐介）

○●○ 卒論等発表の場としてのランチョンセミナー活用を ○●○

平成15年6月に始まった角間ランチョンセミナーは、今年度前期で通算300回を超えました。お忙しい中、ミニ講義を引き受けていただきました教職員の方々、また、留学生センター、外国語教育研究センター、保健管理センター等、国際交流月間、外国語の学び方、ヘルスケアウィークの企画を立てていただいた部局には、特に感謝いたします。

総合教育棟A1講義室の昼食時間帯を使つての試みのうち、前期は「図書館の使い方」「レポートの書き方」「情報ネットワークの使い方」等、1年生の大学へのソフトランディングを主たる目的としたものを続けてきました（昨年度からは毎日開催）。今年度、そうした自由参加によるミニ講義の内容は、共通教育新カリキュラムにおいて「大学・社会生活論」（導入科目）および「情報処理基礎」の全学必修科目に発展的に採用されました。とりわけ「大学・社会生活論」は、当センターの学士課程教育再編プロジェクト拡大会議（8月30日開催）で反省点も出され改善の余地があることは事実ですが、「初学者ゼミ」とともに今後、本学のいわゆる初年次教育の核となるべきものと思われまふ。結果として、ランチョンセミナーは、本学のカリキュラム改善に一定の役割を果たしたものと考えております。

さて、後期のランチョンセミナーにつきましては、学生たちの学習成果の発表の場としての機能を充実させていきたいと考えます（8日開催第5回教育企画会議でも報告済み）。これは、7月28日に開催しました当センター教育成果公開プロジェクト会議での議論に基づくものです。部局の研究室単位で、卒論作成過程における検討会等の場としてのランチョンセミナーの活用をご検討いただければ幸いです。学生の学習・研究成果発表の場、プレゼンテーション能力向上の機会としてご利用いただければ、そのまま、1年生たちに、いずれは自分たちもこのような論文を書くことになるのだという学習動機付けを持たせることとなります。加えて、各研究室の内容紹介・オリエンテーションにもなります。詳細につきましては、教育支援システム研究部門の青野または堀井（共同研究室 Tel: 5837、または info-rche@ge.kanazawa-u.ac.jp）までお問い合わせください。

（文責：教育支援システム研究部門 青野 透）